

森林管理署長等が語る！ 令和8年4月 上越森林管理署長 松井 章二

【はじめに】

上越森林管理署の概要については、歴代の先輩方が既に執筆しているとおりで、今更・・・という気もしたが、過去の記録を遡ると前回は令和5年度、その前は令和元年と数年に一度という執筆頻度であるので、まずは、管轄地域および管内国有林の特徴を記載したいと思います。

併せて、当署が現在、重点的に取り組んでいる内容と、当署の管内の楽しみ方について記載してまいります。

【上越森林管理署の管轄地域】

上越森林管理署は、新潟県南部の三市(上越市、妙高市、糸魚川市)の国有林約3万6千 ha を管轄しており、その多くは関川、姫川の源流部に位置しています。

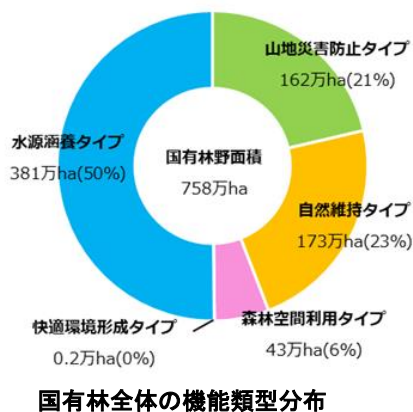
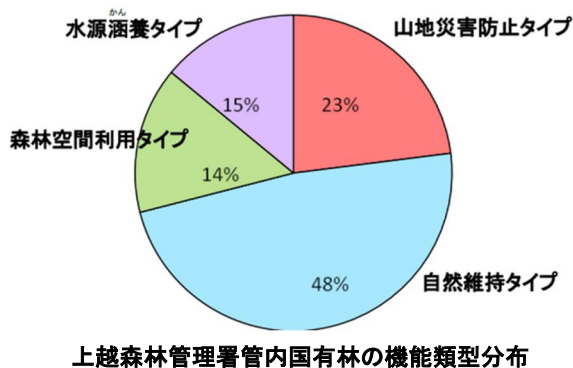
管内はフォッサマグナに位置していることから、国有林内にも日本100名山である妙高山、火打山、高妻山、雨飾山のほか、県内最高峰の小蓮華山、焼山等の比較的若い火山や名峰がそびえています。

また、火打山、焼山は日本のライチョウ生息地の北限でもあり、火打山、小蓮華山にはライチョウの保護林が設定されています。



【管内の国有林等の特徴と主な業務】

当署管内の国有林は、火山地帯にあり、河川の源流部や高標高地域にあるため、そもそも広葉樹林が多いという特徴があります。その結果、自然維持タイプが48%、森林空間利用タイプが14%となっており、水源涵養タイプが15%となっており、国有林全体では、水源涵養タイプが50%、自然維持タイプが23%、森林空間利用タイプが6%であることと比較すると、水源涵養タイプが少なく、管理や治山に係る事業が中心となっている珍しい地域であると言えます。



(1) 管理業務等

当署管内は全国有数の豪雪地帯であり、妙高地区では6つのスキー場、上越市安塚地区では1つのスキー場が国有林内にあります。特に妙高杉ノ原スキー場では大規模なリゾート開発が進んでおり、いずれのスキー場も集客と安全確保に向けた取組を積極的に行っており、これらのスキー場利用(温泉も含む)に係る管理業務も重要な業務となっています。

また、前述のとおり妙高地区は日本のライチョウ生息地の北限であることから、保護林を設定していますが、火打山では毎年、環境省がライチョウ平や山頂直下においてイネ科植物の除去を行っており、当署も署長や若手職員が参加(1泊2日、2泊3日)し、妙高市役所、地元関係団体、学生の方と汗を流しています。長年の取組の成果もあり、令和7年度に山頂直下を担当したチームは、ライチョウを見ることができたようです。



(2) 治山業務

当署管内の妙高山、焼山周辺では、「焼山噴火(昭和49年7月28日)」、「5. 18妙高高原地すべり災害(昭和53年5月18日)」をはじめとする自然災害が発生しており、下流に多大な被害をもたらしてきました。このエリアは、日本有数の豪雪地帯であり、急峻な地形であることから、溪岸浸食が激しく、継続的に治山事業(主として溪間工)を実施していますが、工期は雪の影響で6月～11月と非常に短くなっています。

また、日本有数の地すべり地域である松之山地区、牧区、安塚区は、田畑に近く斜度が急峻な箇所ではありませんが、冬季の降雪が4mにも達することから、融雪による地すべりが発生しており、長年、民有林直轄地すべり事業を行っています。



ヘリコプターによる「袋型石詰筋工」を施工し、土砂の移動を抑制した後、航空実播工により植生回復も計画するなど、早期の復旧を目指しています。

【重点的な取り組み】

当署では、「国有林として地域にどのようなサービスを提供できるか」をモットーに、上越地区の他の機関や団体と連携しつつ、地域に貢献できる取組を「できない理由ではなく、できる理由を探し」ながら行っています。

このような取組として令和7年度は、10月に糸魚川消防署との交流の中で企画された「新潟焼山の国有林における防災対策(現地検討会)」(気象庁、県、市、警察、消防、局)を実施しました。

11月には、職員発案による「中越大震災復旧対策見学会」(県、市、国土交通省、警察、消防、局、署)を実施し、県内ニュースでも大きく報道されました。

さらに、近年、増加しているバックカントリーの事故対策として、妙高市、警察、消防と連携した注意喚起看板を設置しました。



国有林内の火山防災の現場を初めて見る関係者

このような取組を進めることで、地元自治体や関係機関との連携が深まっている実感もあることから、今年度も地元の声に耳を傾けながら、「上越森林管理署があってよかった」と感じてもらえるような取組を企画していきたいと考えています。

【上越地域の楽しみ方】

上越地区は、北は日本海、南には頸城山塊をはじめとする山岳地帯に囲まれています。ここからは、皆さんに上越地区の四季折々の魅力のほんの一部を紹介したいと思います。あくまでも、私の主観によるものになってしまいますことをご了承ください。

【歴史】

言わずと知れた上杉謙信公の居城であった春日山城のお膝元です。春日山城址を歩くと、謙信公もこんな景色を見ていたのかなあと感慨深いものがありました。

市内の至る所に、「毘」「信」「義」「愛」「龍」といった文字が躍っていますが、決してヤンチャなわけではありません。全てはスーパースターである謙信公への「愛」なのです。ちなみに、私は兄から上越に着任する直前に、あの方の旗印である「風林火山」と書かれたTシャツを貰ったのですが、着る勇気がありません。

【通年】

糸魚川は日本ヒスイの産地です。ヒスイ峡のように天然記念物になっている場所では拾うことはできませんが、ヒスイ海岸ではヒスイ拾いをすることができます。ただ、ヒスイ原石は、いきなり見てもわかりません(私のように、蛇紋岩を喜んで拾ってくるのが関の山です)。しっかりと、事前にヒスイミュージアム等で勉強するのがおすすめです。

【食】

春： 山菜とホタルイカ！！糸魚川はホタルイカの北限です。当署にもホタルイカシーズンになると、眠そうな目出勤してくる職員も少なくありません。富山まで遠征する人、「新潟県内からは出ない！」「シーズンの初物は自分でとったイカ！」という強い意思のもと、殆ど収穫のないシーズンを送る職員(疲れると枯れ葉がホタルイカに見えてきて、網ですくってしまうそうです)と悲喜交々ですが、署内はホタルイカの話で盛り上がります。

もちろん、山菜も豊富な地域なので、自ら山菜採りに行くことも少なくありませんが、道の駅にもたくさん売っています。

夏： なんでしょう……。のどぐろが旬のようです。こちらでも、まあまあいい値段がする(といっても、都内よりはるかに安い)ので食べる機会は多くありませんが、それなりに目にします。

秋： 果物が豊富に出回ります。上越地区は、ブドウの産地です。とても美味しいです。意外ですがイチジクもたくさん種類があって驚きます。イチジクの食べ比べも楽しいです。

冬： エビ、ベニズワイガニ、アンコウ。野菜は雪室野菜といって雪中保存したのもでできますが、ここはやはりエビ、カニ、アンコウでしょう。黙々と食べるもよし、鍋でワイワイ食べるもよし。寒い冬を楽しみましょう。

【遊び】

春： サクラ🌸。高田城址公園は日本三大夜桜の名所で観桜会が盛大に開かれます。広い公園内一面に咲く様子は圧巻です。新潟名物ポップ焼きを頬張りながら花見は如何でしょうか。

花といえば、サクラですがカタクリも忘れないください。斐太歴史の里では、4月には一面のカタクリ群落を見ることができます。個人的にはこの規模の群落は初めて見ました。山頂からは、妙高、火打山や上越市内、日本海が一望できます。

夏：海水浴。長野県民の海と言われる上越。毎週末になると、長野からどっと海に向けて人が押し寄せてきます(はやる気持ちを抑えきれない車も多いので要注意)。

また、花火も各所で毎週のように上がります。長岡花火の影響か、結構盛んな気がします。

秋：紅葉。管内の名だたる山は紅葉の名所です。体力に応じて素晴らしい紅葉を楽しめます。

冬：ウィンタースポーツと温泉。上越地区は豪雪地域であり火山地帯であることから、冬はパウダースノーでスキー、スノーボードを楽しんだ後は、雪見風呂は如何でしょうか。その後は、街に出て日本海の幸と美味しい地酒を堪能して下さい。

近年、インバウンドで海外のスキーヤーが激増しています。個人的には、20年前のニセコを見ているような感じがします。冬になると地元のスーパーは大量の買い物をする外国人であふれます。レジのお姉さんによると、「外国にいるみたいです。」「大雪のときは(店に外国人は)来ないかなと思ってたら、関係なく来ます。」とのこと。みんな、肉とか卵とか牛乳とかを大量に買っていますが、どこで調理するんでしょう。疑問です。

このほか、上越は隠れたラーメン激戦区で、とてもラーメンが美味しいです。特に味噌系が人気な気もしますが、施油系、煮干し系と色々あり、冬には酒粕の入ったメニューを各店舗で出しています。是非、お気に入りのお店を探しては如何でしょうか。